

教科名	児童の姿態(現状の課題)	具体的な改善のための方策
国語	<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な言語事項を理解し、文の構成に関する事項を活用できない児童がいる。 【書く】 <ul style="list-style-type: none"> 文章を書く力に個人差が大きい。文章の構成や段落の使い方に課題がある。 【言語】 <ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に個人差が大きい。 【自分の考えの表現】 <ul style="list-style-type: none"> 考えたことを正確に話すことに苦手意識をもっている児童がいる。 自信をもって発表することに苦手意識をもっている児童がいる。 	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主語述語の関係を考えながら、文章を捉えられるように、音読などで繰り返し指導する。 【書く】 <ul style="list-style-type: none"> 作文や学習感想、日記等児童の姿態に合わせて文章を丁寧に考えながら書く機会を作り、文章の構成や段落の使い方などを指導していく。 【言語】 <ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習を充実させる。家庭学習の活用を丁寧に行い正しい字形で漢字を覚えることができるようにする。 【自分の考えの表現】 <ul style="list-style-type: none"> 司会や日直等、人前で話す機会を増やす。また、授業内でも自分の考えを言葉にする機会を増やす。
社会	<p>【資料の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取り能力に個人差があり、正確に読み取ることのできない児童がいる。 【考えの表現】 <ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対して、自分の経験をもとに予想を立てたり、学習した内容をもとに答えを書いたりする活動に難しさを感じている児童がいる。 	<p>【資料の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料をビッグパッドに投影して、全員で資料の読み取りを練習することで、資料ごとのポイントをつかみ、正確な読み取りができるようにしていく。 【考えの表現】 <ul style="list-style-type: none"> 資料を比較して考えたり、過去の学習や生活体験と関連付けて考えたり、思考する際の視点を明確にすることができるように示していく。
算数	<p>【知識の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算の処理に時間がかかる児童が多い。また、正確さが課題となる児童も多く見られる。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、意味を深く理解したり、それらを説明したりする力に個人差が見られる。 文章問題では立式することに課題が見られる。 	<p>【知識の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の習熟度に応じて、家庭学習で四則計算の問題を課題として児童に渡す。算算の計算はノートのマス目を意識して書くように指導する。 学力向上タイムで、学習している単元のeライブラリに取り組み理解の定着を促す。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の授業形態を工夫し、集団検討場面の時間確保と充実を図る。また単元の中で、問題解決型の学習と反復練習を中心とした学習を、効率的、効果的に設定していく。 教直線を活用して、自信をもって立式できるように指導を継続する。
理科	<p>【予想と結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、自ら予想をたて結果をまとめることが難しい。 【結果・考察】 <ul style="list-style-type: none"> 結果と考察の違いが分かっていない児童がいて、考察を書くことができない。 【条件制御】 <ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、どんな条件を制御し実験を行うのか考え、得られた結果を基に考察し、問題解決する力が弱い。 	<p>【予想と結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えで予想をたてることが難しい児童に対しては、話し合いを通じて友達の見解を参考にし、自分の意見をまとめる手立てを行う。 【結果・考察】 <ul style="list-style-type: none"> 結果と考察の違いを児童に伝えるとともに、結果をもとに、考察を書けるように指導する。考察する時間を十分に確保し指導にあたる。 【条件制御】 <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、条件制御を考えるために、分かりやすく表や図に示す。
音楽	<p>【思いや重なりをもった表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に音楽に関わり、表現する喜びを味わえてきたが、なかなか発表の機会がない現状がある。また、曲の特徴にふさわしい表現を工夫できない児童も多々いる。 【曲について聴き取ったことと感じ取ったことを伝える】 <ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造などの関わりについて理解することが難しい児童がいる。 	<p>【思いや重なりをもった表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 表したい音楽表現をするための必要な技能のさらなる習得を目指す。少人数指導を行い、一人一人丁寧に指導を行っていく。 【曲について聴き取ったことと感じ取ったことを伝える】 <ul style="list-style-type: none"> 曲を聴いたときに、どんな感じがしたか、また音楽の構造との関わりについて、全員が発言できるようにしていく。
図工	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の道具や材料、技能を他の題材で応用することを意識できてきたが、効果的に行うことが難しい児童もいる。 【思考力・判断力・表現力】 <ul style="list-style-type: none"> 自分なりの表現を見付けて、意欲的に作品に取り組む児童が多い。粘り強く丁寧にに取り組む半面、期限内に完成しない子もいる。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具や材料の基礎的な使い方を定着させると共に経験したことの表現方法を試すことのできる機会を設け、表したいことに応じて使い分けられるようにする。 【思考力・判断力・表現力】 <ul style="list-style-type: none"> 授業ごとにあてて明確化し、進捗目標を共有する。 机間指導をし、進度に遅れが出ている児童には声かけやアドバイスをする。
家庭	<p>【生活経験の有無・作業の進み具合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活経験の有無への、技能習得の時間に個人差がある。 新型コロナウイルス感染症への対応で、これまでより教え合いの機会が少なくなっているため、自力で学習を進めていくのが難しい児童が見られる。 【作業の手順を考え、見直す】 <ul style="list-style-type: none"> 作業手順や必要なものを自ら考え進めることに慣れていない。 	<p>【生活経験の有無・作業の進み具合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り返し実践できるよう作業時間を確保していく。裁縫の玉結びや玉止めなどを複数回取る、家庭学習に組み込むなど、継続して学習する機会を多くとるよう工夫する。 少人数グループによる指導を取り入れて、個別に支援できる機会を増やす。また、ビッグパッドに作業順を掲示し児童が必要に応じて確認できるようにする。 【作業の手順を考え、見直す】 <ul style="list-style-type: none"> 学習や製作を行うときに、材料・手順・段取りを考える機会を設ける。情報を交換することで、修正する機会も徐々に取り入れていく。
体育	<p>【運動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決する際に、運動の工夫をしている児童が少ない。 20mシャトルランの記録から、体力面に課題が見られた。 【グループで高め合う授業作り】 <ul style="list-style-type: none"> 体育の時間中は、個人での運動になりがちになり、友達同士の間での交流があまり多くない。 	<p>【運動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「できる」と「わかる」の違いを理解させ、理論的に分かっていることとできないように工夫、あるいはできていることを理論的に説明できるようにする工夫の両面から技能ポイントを分析する活動を取り入れていく。 グループ学習を積極的に行い、技能ポイントを分析させたり、アドバイスを送ったりさせることで運動の仕方への工夫を定着させる。 補助運動から日常に繋がる運動遊びを取り組み、日頃から運動に向かう児童を目指していく。 【グループで高め合う授業作り】 <ul style="list-style-type: none"> 技能は言葉表現によって伝わる度合いが徐々に変わる。技能上達のためのコツを自分の言葉で言語化させる場面を多く設定する。
道徳	<p>【自分事として考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容を自分事として考えることができないことがある。 【人権感覚を高める】 <ul style="list-style-type: none"> 学習したことを、実生活で生かすことができていない児童が多い。 	<p>【自分事として考えるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習したことを自分の生活と重ねて考える場面を設定する。振り返りでは、自分の生活にどう生かすかという視点で振り返らせる。 【人権感覚を高める】 <ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習や子供の生活場面と連携させながら指導を進める。学習したことを生かす場面を多く設定する。
外国語活動	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語でのコミュニケーションに対して苦手意識が強く、積極的にアクティビティに参加できない児童がいる。 【会話】 <ul style="list-style-type: none"> 単語の羅列が多く、文章で伝えることが難しい。 	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が楽しみながら参加できるように、理解が難しい児童には事前に丁寧な説明を行う。 【会話】 <ul style="list-style-type: none"> 文章の基本的な構成を意識するために、短いフレーズをチャンクやジングルを何度も繰り返し学習し覚える。
総合的な学習の時間	<p>【インターネットを用いた情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットを利用して資料を集める活動が好き。資料を集めることが困難な児童もいる。 【表現方法の習得】 <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを表現する部分を苦手とする児童が多い。 【個人の活動が多い】 <ul style="list-style-type: none"> 課題がそれぞれ異なることが多いため、個人の活動が多くなってしまふ。 	<p>【インターネットを用いた情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットの簡単な使い方指導するとともに、画像印刷の仕方などについても合わせて指導する。同時に本やインタビュー等インターネットに頼らない情報収集の利点についても指導していく。 【表現方法の習得】 <ul style="list-style-type: none"> ポスター発表やスライドにまとめた発表など、様々な選択肢を児童に提示して、内容にあった発表方法を選べるようにする。 【個人活動が多い】 <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習のねらいでもある、情報の発信までを必ず行う。発信は、友達や担任、保護者、下級生など、様々な立場の人へ発信できるようにする。
学びに向かう力を育てるための方策	<p>・授業で何を学ぼうとしているのか理解していないまま授業を受けていることがある。</p> <p>・毎時間のめあてとまとめを必ず児童に考えさせることで、その時間に自分が学ぼうとしていることと、学んだことを整理させる。</p>	